

Subject : **Japanese**

Production of Courseware
e- Content for Post Graduate Courses



Paper No. **02** : 日本語学 (Japanese Linguistics)

Module **25** : 指示詞 (Demonstratives)



Development Team

Principal Investigator: **Prof. Anita Khanna**
Jawaharlal Nehru University, New Delhi

Paper Coordinator: **Prof. Prashant Pardeshi**
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Writer: **Prof. Shingo Imai**
University of Tsukuba


Content Reviewer: **Prof. Prashant Pardeshi**
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Japanese

Japanese Linguistics

指示詞 (Demonstratives)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	指示詞 (Demonstratives)
Module ID	JPN-P02-M25
Quadrant 1	E-Text

 **Pathshala**
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

指示詞 (Demonstratives)

しじし 指示詞

もくてき もくてき にほんご しじし げんばしじ ぶんみやくしじ ようほう
目的：このモジュールの目的は、日本語の**指示詞**の現場指示と文脈指示の用法について解説することである。

しじし けい けい けい ぎもん あらわ くわ
 指示詞はコ系，ソ系，ア系をさすが、これに疑問を表すド系を加え、これらをまとめて「こそあど」と呼ぶこともある。日本語の指示詞の体系の一部を下に示す。

	もの 物	れんたいし 連体詞	ばしょ 場所	ほうこう 方向
けい コ系	これ	この	ここ	こっち(こちら)
けい ソ系	それ	その	そこ	そっち(そちら)
けい ア系	あれ	あの	あそこ	あっち(あちら)
けい ド系	どれ	どの	どこ	どっち(どちら)

しじし げんばしじ ようほう ぶんみやくしじ ようほう わ げんばしじ わしゃ ぼしょ
 指示詞は現場指示用法と文脈指示用法に分けられる。**現場指示**は話者がいる場所から見えるものを指す**直示 (deixis)**用法であり、**文脈指示**は発話や文章の中で出てきた

もの・ことを指す照応 (anaphora) 用法である。(1) が現場指示, (2) が文脈指示の例である。

(1) (指差して) あれ取って。

(2) 昨日, 田中さんという人にあつたんですが, その人は, 私の古くからの友人です。

現場指示用法は, 話し手からの距離と, 聞き手の領域にあるかないかの 2 つの要因によって, どの指示詞を使うかが決まる。聞き手と話し手が同じところにいる, 二人が見ているものを指すときには, (3), (4), (5) のように近いものにはコ系, 中距離にはソ系, 遠距離にはア系を用いる。これは話し手と聞き手の融合型である。中距離のソ系は場所を表す「そこ」「その辺り」以外はあまり使われない。

(3) (手に取って) これ, 欲しいなあ。

(4) (ちょっと離れた店を指して) その店, ちょっと見てみない?

(5) (遠くの店を指して) あの店も面白そうだなあ。行ってみない?

話し手の領域と聞き手の領域の対立型では、話し手と聞き手の領域を使う。(6), (7),

(8) のように話し手に近い領域にはコ系、聞き手に近い領域にはソ系、話し手と聞き

手の両方の領域の外にはア系を使う。

(6) (手に取って) これ, どう?

(7) (聞き手の近くのものを指して) すみません, それ取ってもらえますか。

(8) (遠くを指して) あそこまで行ってみない?

現場指示用法は眼前指示と言われることもあるが、必ずしも眼前に見えていなくてもいい。例えば、どこからか聞こえてくる音を「この／あの音、何?」と言うことができる。

話し手と聞き手からの距離や領域は相対的に決まるもので、絶対的なものではない。

聞き手がたとえどんなに遠くに離れていても、聞き手の領域内はソ系で表される。た

とえば、遠くの人に電話をして、「そっちの天気はどう?」というように言うことができ

る。自分の体が聞き手の領域になることもある。話し手が自分自身の背中について

言うときでも、もし、聞き手が背中を触っていたら、話し手は「そこ、そこが痛い。」

のように言う。これは、聞き手に触られることにより、自分自身の背中が聞き手の領域と意識されるからである。もし、自分も背中を触れば、そのときはコ系が使える。

次に文脈指示の用法を見るが、先に挙げた (2) (再掲) および (9) がその例である。

(2) 昨日、田中さんという人にあつたんですが、その人は、私の古くからの友人でして。

(9) A: 「この間、昔の友人に久しぶり会ったんです。」

B: 「そうですか。その方とは何年ぶりぐらいだったんですか。」

(2) の「その人」は「田中さん」を、(9) の「その方」は「昔の友人」を指す。「田中さん」、 「昔の友人」は先行詞 (antecedent) と呼ばれる。文脈指示は文脈に現れる先行詞を指す前方照応の用法である。(2) のように話し手は知っているが、聞き手は知らない場合

および (9) の B のように話し手 (B) は知らないが、聞き手 (A) が知っている

場合にはソ系が使われる。話し手も聞き手も知っている場合には (10) のようにア系が

使われる。

(10) A : この間、^{あいだ} ^{だいいちだいがく} 第一大学の^{さとうせんせい} 佐藤先生に^あ 会いました

B : あ、^{せんせい} ^{わたし} ^し あの先生なら、私 も知っています。

このように、^{じょうほう} ^{はな} ^て ^き ^て ^{きょうゆう} 情報を話し手と聞き手が共有している場合にはア系、そうでない場合に
^{けい} ^{つか} ^{けい} ^{はな} ^て ^か ^こ ^{たいけん} ^{けいけん} ^し ^き ^て
 はソ系が使われる。ア系は話し手が過去に体験・経験して知っていることを、聞き手も
^{おな} ^{たいけん} ^{けいけん} ^し ^{はな} ^て ^{おも} ^{つか} ^{ようほう}
 同じように体験・経験して知っている（と話し手が思っている）ときに使われる用法で
^か ^こ ^{できごと} ^{きおく} ^{いぞん} ^{きおくし} ^{じょうほう} ^よ ^{きおくし} ^じ
 ある。過去の出来事の記憶に依存しているので、**記憶指示**用法とも呼ばれる。記憶指示
^{ようほう} ^{ぶんみやく} ^{せんこうし} ^さ ^{ばあい} ^{せんこうし}
 用法は (10) のように文脈にある先行詞を指す場合と、(11), (12) のように、先行詞な
^{つか} ^{ばあい}
 しに使われる場合がある。

(11) この間、^{あいだ} ^{しょくどう} ^あ ^{ひと} ^{なまえ} ^{なん} ^い 食堂で会ったあの人、名前、何て言ったっけ？

(12) (独り言で) ^{ひと} ^{ごと} ^{ころ} あの頃は、よかったなあ。

^{きおくし} ^じ ^{げんばし} ^じ ^{ぶんみやくし} ^じ ^{ちゅうかんでき} ^{ようほう} ^{せんこうし} ^{ともな}
 記憶指示は現場指示と文脈指示の中間的な用法である。先行詞を伴わず、「いま」

^{げんば} ^か ^こ ^さ ^{てん} ^{げんばし} ^{じてき} ^{げんば}
 という現場から、過去を指している点は現場指示的だが、「いま」という現場ではない、

^{きおく} ^し ^じ ^{たいしょう} ^さ ^{てん} ^{けいてき} ^{げんばし} ^じ
 記憶にある指示対象を指しているため、典型的な現場指示ではない。(10) のように

ぶんみやくし じ おな せんこうし さ ぼあい いっぽう せんこうし
 文脈指示と同じく、先行詞を指す場合がある一方、(11) , (12) のように先行詞がない

もち てん てんけいてき ぶんみやくし じ ようほう
 ときにも用いることができるという点では、典型的な文脈指示用法でもない。

はな て し き て し ぼあい ぶんみやくし じ けい つか
 話し手が知っていて、聞き手が知らない場合は (2) のように文脈指示のソ系が使わ

きほん かいそう きおくし じ けい つか
 れるのが基本であるが、回想するときには (13) のように記憶指示のア系も使われるこ

あいて せつめい じょうほう あた はな て じぶん おも で
 とがある。相手に説明したりして情報を与えるというよりも、話し手が自分の思い出

ひた かん き て ひと ごと
 に浸っている感じになる。たとえ聞き手がいても独り言のようになっている。

いなか むかしす いえ いえ うらにわ き
 (13) 田舎に、昔住んでいた家があるんですが、{その／あの}家の裏庭にミカンの木
 がありましてね。

あいて と ぶん ひと ごと かん きおくし じ
 (14) のように相手に問いかける文では、独り言のような感じがなくなるので、記憶指示
 けい つか
 のア系は使えない。

いなか むかしす いえ いえ うらにわ なに
 (14) 田舎に、昔住んでいた家があるんですが、{その／*あの}家の裏庭に何があった
 おも
 と思いますか。

ひぶんぼうてき しめ
 (*のマークは非文法的であることを示す。)

(15) のように聞き手がいない完全な独り言の場合には、ソ系は使えなくなり、記憶指示のア系を使う。

(15) 昔住んでいた家にはミカンの木があったなあ。{あの/*その} 家、今もあるかなあ。

記憶指示用法のア系は過去の体験・経験には使えるが、体験・経験していない未来や仮定のことについては使えない。その場合は、(16), (17) のように文脈指示のソ系を使う。

(16) 来年、論文を書くつもりです。{それ/*あれ} を発展させて博士論文にする予定です。

(17) もし、家を買ったら、{その/*あの} 居間に、これを飾りたいね。

以上のように記憶指示用法のア系が現れるのは、会話で話し手と聞き手の過去の記憶情報が共有されているときと独り言のように話し手が自分自身の記憶情報を指す場合である。

レポートや論文のような文章では、記憶指示用法は現れず、コ系かソ系だけが使われる。コ系の例としては以下のようなものがある。

(18) この章では、日本語の文法について概観した。

(19) この表から、次のようなことが言える。・・・

(20) 以上、ここまでの論点をまとめると、次のようになる。・・・

これらのコ系は、文章の中に出てきた「章」や「表」、あるいは、その文章の部分自体を指しているため、直示用法と考えられる。

コ系には、(21)、(22)のように後に出てくるものを指す後方照応 (cataphora) の用法もある。これも、直示用法の一種と考えられる。話し言葉で使われ、ソ系やア系には後方照応の用法はない。

(21) こんな話、聞いたことがありますか。地球温暖化の現象で、北極の氷が少なくなっているんだそうです。

(22) これはまだ誰にも話していませんが、実は、来年、結婚するつもりです。

キーワード：

しじし ちやくじ げんぼしじ ぶんみやくしじ きおくしじ ぜんほうしょうおう こうほうしょうおう
指示詞 直示 現場指示 文脈指示 記憶指示 前方照応 後方照応



Japanese

Japanese Linguistics

指示詞 (Demonstratives)